



あいご



NO
WAR



園通信 令和8年7月1日 第4号
キッドワールドセカンドこども園
園長 高木 良司

今年は、「あめふりさんぽ」の機会が多く取れ、水たまりにバシャバシャと足を踏み入れたり、降ってくる雨を全身に浴びて気持ち良さを味わったりして、子どもたちは大満足だったようです。

先日は、3歳以上児クラスにつきまして、たくさんの保護者の方に保育参観においでいただきありがとうございました。それぞれの活動の中でお子さんの成長を目の当たりにして感じられたことと思います。ここで少し保護者の方の感想を披露したいと思います。

- 保育参観ありがとうございました。「あとなんかいねたらパパとママくる？」と、この日を楽しみにしていたようです。少し恥ずかしそうでしたが、普段の様子を見ることができ良かったです。
- とても楽しかったようで、「やさいのペタッしてたのしかったね！」と家に帰ってからも言っていました！！園ではしっかり椅子に座ってじっとしているんだな—と感心しました！ あいさつやお歌も大きな声でできていてびっくりしました。いつもありがとうございます！！
- 一緒に作って遊んで、とても良い時間でした。制作中に〇〇(園児の名前)が「せんせいできた～！」と自分から言う姿を見て、今まで自分から先生にアピールする(声に出して言う)姿はあまり見たことがなかった(イメージになかった)ので、成長・変化を嬉しく思いました。
- 懇談での4歳児のお話も「まさに！！」というもののばかりで、それを頭において〇〇と過ごしていきたいと改めて思いました。
- こどもたちのじゃんけんれっしやに混ざって一緒に楽しかったです。△△(園児の名前)ちゃんもママパパが来てくれて嬉し楽しかったようで、日曜日も「きょうもほいくさんかんがいい～」と言っていました(笑)。その話の流れで、「ほいくたいけん、ぜったいにきてね」と念を押されました！

たくさんの嬉しい言葉をくださりましてありがとうございます。園児たちには、しっかりと社会性が育ち、一人一人の考える力が育ってきているのだなと実感しました。これに満足せず園児一人一人との関わりを大切に、保護者の皆様に、より感動を与えられるように計画を立てて実践してまいりたいと思います。そして是非、8月の保育体験に参加していただきたいと思います。

さて、7月の大きなめあては「好奇心」です。園児たちは、あそびの中から様々なことを学んでいます。そして保育教諭は、学びの中から知的好奇心が生まれるように教育・保育環境を整えることに知恵を絞っています。その知的好奇心が大きく膨らみ、それを満たせるようにしっかり関わっていききたいと思います。

<7月の予定>

- 7月 6日(月) 身体計測週間(～12日、すもも・かりん・れもんぐみ)
- 7月 7日(火) 七夕集会
- 7月 8日(水) 特別想定訓練(不審者想定)
- 7月11日(土) 保育参観(いちご・あんず・きういぐみ)、お弁当日 ☘
- 7月13日(月) 避難訓練(地震想定)
身体計測週間(～17日、いちご・あんず・きういぐみ)
- 7月24日(金) 誕生会
- 7月28日(火) 健康診断



歯みがき指導

6月25日(木)、すもぐみとかりんぐみ、れもんぐみを対象に歯みがき指導がありました。講師は、当園職員の中村保健師でした。

毎年恒例のものです、すもぐみにとっては初めてのものでした。はじめからしっかり話を聞く姿は、真剣そのものでした。

かりんぐみとれもんぐみにとっては、復習となりました。中村保健師の「この歯ブラシの持ち方の名前覚えてるかな？」の問いかけに頭をかしげていた園児が何人かいました。

歯みがきの大切さと歯の場所よりの磨き方の違いを学び、実践をしました。これが身につければ良いと思います。



中村保健師、説明中⇒



『わにさんどきつ はいしゃさんどきつ』鑑賞中



歯みがき指導中



汚れの付いた「歯」シートを磨いています



👉 お手本を見ながら磨いています 👉



コラム 8 1：子どもが望む大人の世界⑨ ～17の子どもの願い～

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

前回までに紹介しきれなかった⑩番目にあたる「ユーモアに富んだ保護者になる」の項目以下について、今回も同様に紹介していきたいと思います。

早速ですが、今回は、⑩番目にあたる「ユーモアに富んだ保護者になる」ということから始めていきたいと思います。

最初に、子育てにおける「ユーモア」ということについて考えていきますが、子育てにおける「ユーモア」ということは、単にその場をなごませるということだけではなく、子どもの心の成長や親子関係の構築に非常に重要な役割を果たしています。ユーモアを理解し、日常的にユーモアを交えて触れ合うことは、子どもの脳の発達と認知の柔軟性を刺激します。心理学や教育学の視点からみてもこのユーモアには、様々な素晴らしい効果があるということが言われていますので、それらのことについて紹介していきたいと思います。

まず最初は、「ユーモア」は、親子の絆を深める「アタッチメント（愛着）」を形成するということです。

親子のユーモアを交えた話の楽しいやり取りは、親子の中にお互いの笑顔や笑い声を生み出します。親子で一緒に笑うことで、子どもは、「自分は受け入れられている」「大事にされている」と感じ、「ここは安全な場所だ」という強い安心感を抱きます。この笑いによって子どもの脳内には愛着ホルモンであるオキシトシンやエンドルフィンが分泌され、子どもは「自分はこの場に人間として受け入れられている」ということを深く感じ、安心感が醸成されるのです。また、日常の親子の何気ない笑いの積み重ねによって、親子の関係性の質を高めるとともに、親子の信頼関係の強固な土台を作ることにもなります。

次に、感情のコントロールとストレス緩和ができるということです。子どもと関わる子育ての現場では、親子であっても時にイライラしたり緊張が生まれたりします。ところがこのユーモアは、その張り詰めた空気を一瞬で和らげる「安全弁」のような役割をしてくれます。偶然起こってしまった失敗やトラブルをユーモアで包むことで、子どもは「深刻になりすぎなくていいんだ」という心の余裕を学び、認知的再評価、つまり状況の捉え直しの力が育つのです。例えば、おもちゃの後片付けをしない子どもに対して、「お片付けしなさい！」と叱る代わりに、「あ！ おもちゃたちが『お家に帰りたいよ〜』って泣いてるよ」とユーモアを交えてコミカルに誘うことで、子どもとの対立を回避し不必要な衝突を避け、子どもの主体的な行動を促すことができるようになるのです。



また、ユーモアのある関わりの中で子どもの認知発達と柔軟な思考力を育成することができるようにもなります。「言い間違い」や「ダジャレ」などのようなユーモアは、子どもにとっては、言葉遊びと言語概念を広げるための高度で知的な活動であり、認知発達に必要な言語能力や言葉の文脈を理解する力を育ててくれます。また、ユーモアは「予測していたことと実際の展開とのズレ」から生ずることがよくあります。このズレを「おかしさ」として受け止める経験は、物事を多角的に見る柔軟な思考力（クリエイティビティ）を育て、「ズレによる創造」を楽しむ心のゆとりを生みだします。

さらに、ユーモアのある親子の関わりは、子どもが社会性と共感性を獲得するのに大変役に立ちます。子どもたちが、他の人と共に笑い、楽しさを共有することは、周りの世界の中で生きていく社会性の第一歩になります。「どうすれば相手が笑ってくれるか」「何をしたら相手が嫌がる（笑えない）のか」という実際の経験の中から、子どもは周りの人たちの視点を学び、相手の気持ちを推し量る「共感性」や「共有性」の心の理論を身に付けていくことができます。このようにユーモアのセンスがあり、実際に楽しめる子どもは、集団生活の中でもコミュニケーションを潤滑油にして他者と良好な人間関係を築くことができやすくなるのです。

最後に子育てにユーモアを取り入れる際のポイントについて幾つか紹介しておきたいと思います。ユーモアが最も効果を発揮するのは、親子関係の中に「信頼感」と「安心感」がある時です。どこまでも親子の信頼関係が大切ということです。

子どもが仕掛けてきた小さないたずらや冗談に、親が全力で乗って一緒に楽しむと子どもの自己肯定感を大きく高め、自尊感情を育ててくれます。親が完璧な正論だけで向き合うよりも、時にはちょっとした「隙」や「遊び心」を見せる方が、子どもの心には深く届くことがあります。ユーモアは、子育てという長い旅路を支える、最もあたたかいツールのひとつということができるかも知れません。

一方、子どもの人格や失敗を揶揄するような笑いであったり皮肉やからかいはユーモアにはならないばかりではなく、子どもを傷つけることにもなりますのでくれぐれも避けるようにしてください。このようなことは逆効果になり、親子の信頼関係を崩してしまうことにもなってしまいます。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんので、次に回させていただきます。次回は、⑩子どもの名前をいっぱい呼んであげる ⑪人として美しい親になるなどについて紹介していきたいと思います。

